

鵜川・沙流川流域委員会（第１回）議事要旨

- 日時： 令和６年１０月１５日（火）１０：００～１２：００
- 開催場所： むかわ温泉四季の館 １階 研修室Ａ・Ｂ（WEB 開催併用）
- 出席者： 中津川委員長、岩崎委員（WEB）、木村委員、楠田委員、鈴木委員、谷口委員、
中村委員（以上７名）※委員長以降の順は五十音順
- 議題 １）鵜川・沙流川流域委員会について
２）鵜川・沙流川流域の現状と課題及び河川整備計画の点検のポイント
３）鵜川総合水系環境整備事業計画段階評価について
- 議事要旨
議事に入る前に、委員長の選出が行われ、中津川委員が推薦され承認された。
また、副委員長は、中津川委員長より井上委員が指名された。

１）鵜川・沙流川流域委員会について
特段意見なし。

２）鵜川・沙流川流域の現状と課題及び河川整備計画の点検のポイント

【委員】

- ・ 魚類相の変遷のグラフ中にある重要種は、具体的に何が指定されているのか。
- ・ 第９期北海道総合開発計画において、情報通信技術（ICT）の急速な進化とあるが、河川整備計画変更の際し、情報通信技術をどのように活用していくのか伺いたい。

【事務局】

- ・ 資料-２の７９ページ以降に記載の、過年度の調査で確認された動植物である。
- ・ 情報通信技術の活用としては、工事段階による活用のほか、ワンコインセンサーの活用例としては、市街地等にセンサーを設置し、浸水状況を観測することで、避難情報に役立てることができるものと考えている。

【委員】

- ・ 二風谷ダムの上流における河道状況について伺いたい。
- ・ 河道掘削における土砂還元や二風谷ダムからの土砂還元の目的は、シシャモ産卵床の保護なのか、もしくは、河床の低下を防ぐためなのか伺いたい。

【事務局】

- ・ 二風谷ダム上流区間の河道状況については、次回説明する。

- ・ 現在行っている土砂還元は、シシャモの産卵環境を守るための試験的な取組であり、融雪期の流量によって土砂が還元されるかどうかを確認している。

【委員】

- ・ 沙流川における「二極化」を防ぐためには、シシャモの産卵環境だけに注目してもうまくいかないと思われるため合わせて河床低下対策も必要。また、二風谷ダムの堆砂率が90%に達しているが、対策の必要性について伺いたい。

【事務局】

- ・ 計画堆砂量は 100 年分を見越して計画しており、近年では堆砂の増加が緩やかになり横ばい傾向となっている。

【委員】

- ・ 二風谷ダムの堆砂量について、100 年分を見越した推定であるにもかかわらず、実際には数十年しか経っていないのに急速に堆砂が進んでいるため、現在の堆砂を何らかの方法で排出する検討が必要。

【事務局】

- ・ 近隣のダムにおいても同様の傾向があり、一定の高さまで堆砂すると横ばいとなっており平成28年の出水においても、大きな堆砂は確認されていない。一方、貯水池運用やスルーシング等による排砂対策については検討していきたい。

【委員長】

- ・ これからの気候変動も踏まえると、大きな出水があったときにどうなるのか、堆砂状況はどうなるかについて十分な検討が必要。

【委員】

- ・ シシャモの産卵環境について、令和4年8月の出水後にシルト分が多く占めていたと説明があったが、シルトはシシャモの産卵基質である砂粒の周りにたまると、卵が砂粒に付着できず、そのシルトとともに、産着卵と一緒に流されている懸念があることから、主要洪水と河床材料の粒度組成について確認して欲しい。
- ・ 汀線の後退に関して、浅場が後退していないかについて確認して欲しい。

【事務局】

- ・ 沙流川は5.8 kmまでの区間において、経年的に河床材料を調査しているので次回説明する。

- ・ 海岸部の状況については、平成１６年以降の測量データがあるため次回説明する。

【委員】

- ・ 沙流川では、アイヌ文化の保全対策について、これまで平取ダム建設にあたって協議を重ね、保全対策を進めてきた。今後においても、これまでの調査結果や蓄積した経験を踏まえ、鵜川についても、地域にどのような文化があったのか丁寧に調査する必要がある。
- ・ 二風谷ダムの堆砂について、数字的なものだけではなく、二風谷ダムの建設の経緯についても理解して議論が必要であり、貯水池運用にあたっては景観に対しての配慮が必要。

【委員長】

- ・ 第９期北海道総合開発計画の主要施策の一つとしてアイヌ文化の振興や河川整備計画の方向性としてもアイヌ文化の振興とあるため、今後どのように取り組んでいくのか地域に寄り添った検討が必要。

【委員】

- ・ 気候変動によるリスクの分析について、過去実験と比較する場合は、例えば、２℃上昇実験の計算期間の中で平均値やリスクの高い時期を抽出した最悪のシナリオで表現すべきと考えられる。
- ・ 災害リスクの変化を考える際、最大浸水深が変化することも重要であるが、被害の観点から浸水継続時間も考慮することが重要。

【委員長】

- ・ 気候変動によるリスク分析は、アンサンブルデータで出していると思うので、浸水深や流速も加味して被害を算出するというのも実施されていると思うので、それらも表示すべきと考えられる。
- ・ また、それらのリスクに対し、気候変動したとしても、次の河川整備計画では現在の河川整備計画と同じレベルのリスクに抑えることについて意味が伝わるよう表現すべきと考えられる。
- ・ さらに流域治水は河道整備によって氾濫の危険性は抑えるが、不確実性による氾濫が起こりえることも想定されるため、被害対象を減らす、あるいは、氾濫したときの被害を最小化するということも含め、流域治水を推進していくということを分かりやすく説明できるようにしていただきたい。

【委員】

- ・ 河川整備計画に環境目標を位置づけることになっていると思う。アイヌ文化についての事前調査は保護や保全、二風谷ダム下流で実施しているヨシ原の再生などはアイヌ文化の継承に資するものである。生態系や生物多様性、希少種、注目種ということも大事であるが、生物文化多様性という言葉も学術用語としてあることから、それも含めて考えていただきたい。

【事務局】

- ・ アイヌ文化の保全対象については、既存資料により把握した上で、河川改修に伴い改変の範囲内にあたる場合は、地元と相談しながら進めていきたい。

【委員長】

- ・ 現状と課題及び河川整備計画の点検のポイントを踏まえ、流砂系におけるダム運用の在り方、河道整備の在り方、シシャモの環境を考えた河道整備、沿岸部に関するご指摘、重要なアイヌ文化の振興を考慮し、鷗川・沙流川の河川整備計画を変更することが妥当としてよろしいか。
(異議無し)
- ・ 次回以降の流域委員会では具体的な目標設定及び今後の河川整備の考え方を踏まえた河川整備計画の原案について議論していく。

3) 鷗川総合水系環境整備事業計画段階評価について

【委員】

- ・ 世代にかかわらず河川に親しみを持つということが大切かと思われ、触れる、知ることが重要であり、知ることによって防災、減災にもつながっていくと思われるため、事務局案に賛成。

【事務局】

- ・ 地域と一緒に環境学習や安全教育にも力を入れていきたいと思っている。

【委員】

- ・ 経済性も重要な要素であるが、地元の意向が重要であるため、地元の意向についてヒアリングがなされたのか伺いたい。

【事務局】

- ・ 8月8日にむかわ町が申請したかわまちづくりが登録されており、計画段階評価につ

いては、むかわ町としっかりと議論して出された案になっている。

【委員長】

- ・ ＳＵＰなどを利用してもらうための施設を作ることであるが、積極的に誘導しようとする安全管理が必要。町として何か対策を考えているのか、あるいは、自由使用で進めていくのかについて伺いたい。

【事務局】

- ・ むかわ町でＳＵＰ等に特化した安全管理の講習会への積極的な参加を行い、指導していきたいと聞いている。

【委員】

- ・ ＳＵＰをすることにより、むかわ町のシシャモの産卵には影響しないのか伺いたい。

【事務局】

- ・ シシャモの生息環境に配慮し、必要に応じて対応していきたい。

【委員長】

- ・ 鵠川総合水系環境整備事業計画段階評価について、北海道からの意見はまだ聴取中であることから、北海道の意見次第ではあるが、大きな問題があれば対面で審議し、軽微であれば書面にて審議させていただくこととしたいがよろしいか。
(異議無し)

以上